

北海道地震や大型台風が猛威を振るい、自家発電できる太陽光発電を搭載したZEH（ゼロエネルギー住宅）が安心・安全の面からも注目を集めています。災害対策の面から見たZEHの必要性を小山貴史さんにお聞きします。

停電でも 災害から ZEHは安心 家族を守る

太陽光で発電、暑さ寒さも防ぐ

災害に強い家= レジリエンス住宅×ZEHの ポイント

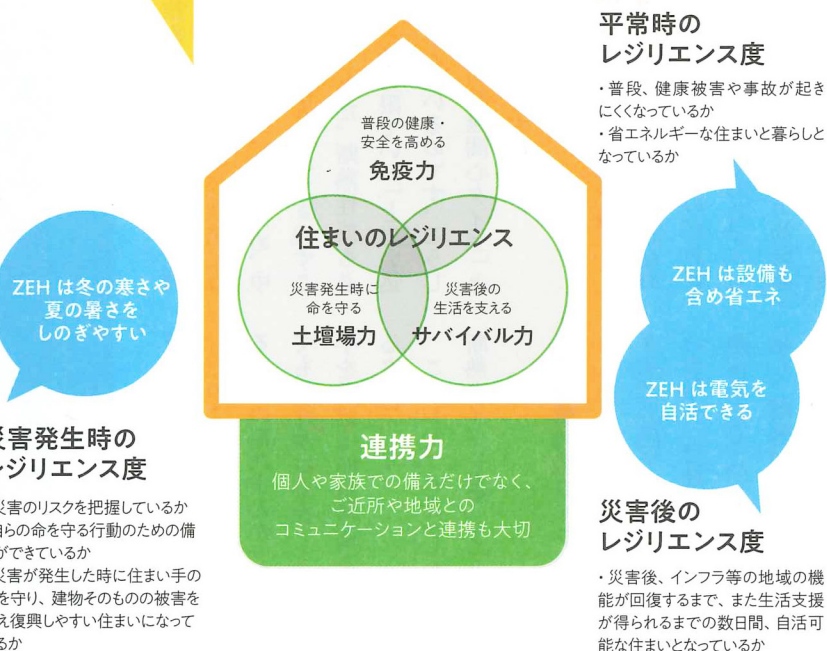


太陽光発電のパワコンには、停電時などに電気が使えるコンセントがついている。別途工事により壁などに非常用コンセントを設けることもできる(写真:エコワークス)

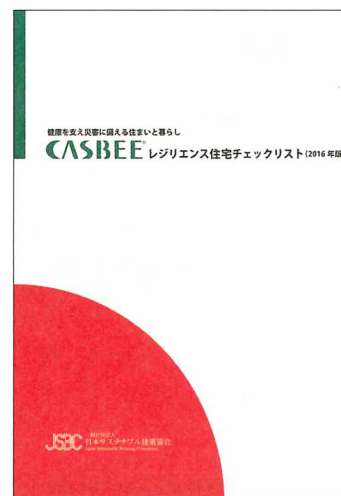


解説 小山貴史
Oyama Takashi

(一社)ZEH推進協議会 代表理事
エコワークス(福岡市)代表取締役
工務店を経営しながら、業界団体の代表
や国の有識者会議の一員として暮らし
野のゼロ炭素化に向け精力的に活動



災害に強い家の 公的チェックリスト



CASBEE「レジリエンス住宅チェックリスト」。平常時の「免疫力」、災害発生時の「土壇場力」、災害後の「サバイバル力」という3つの観点から「住まいのレジリエンス度」を確認できるツール

ZEHは災害に強い家

松本(聞き手) 今回もZEHのメリットについてお聞きします。冷暖房コストの削減や健康に暮らせること以外にZEHのメリットはありますか？

小山 ZEHは最近増えている災害対策の点でも大きなメリットがあります。住宅の環境性能を評価する制度「CASBEE」(キャスビー)のツールの一つ「レジリエンス住宅チェックリスト」で見ると、ZEHはレジリエンス度(災害対応力)が高いことがわかります。ZEHは災害時にも安心して暮らせる住宅と言えます。

松本 2018年9月6日に発生した北海道の胆振(いぶり)地方東部を震源とした地震では、北海道全域が停電しました。予想に反して停電は数日間続いたことから、自宅が発電できる太陽光発電への関心が高まりましたね。

小山 今回は夏の北海道で発生した地震で熱中症の危険性はそれほどありませんでしたが、本州でこの規模の地震が起きていたら、停電で冷房が使えず、熱中症が発生したかもしれません。松本 冬に停電が発生した場合はどうでしょうか。

小山 断熱性能が高いZEHは熱が逃げにくいので少しの熱でも家を温めることができ、暖房にかかるエネルギーも少なくて済みます。灯油なども、使う量(エネルギー)が少なくて済む。物流がストップして灯油が買えないという場合でも、ストックしている燃料を効率的に使うことができるため安心です。

ZEH化で家庭防災 まちの防災拠点にも

松本 停電で電気が使えなくて困っている人に、自宅の太陽光発電を利用してもらうというような光景をテレビのニュースなどでも見ました。小山 災害時の連絡や情報収集に欠かせないスマートフォンを使うのにも電気が必要。電気を確保できるZEHは、災害時には所有者個人の生活を維持するだけでなく、まちのライフライン・防災拠点としても機能します。発電した電力を蓄えることができる蓄電池や電気自動車を用いれば、夜間でも電力を使うことができますし、ヒートポンプ式の給湯器「エコキュート」があれば、昼間に太陽光発電でお湯を沸かして貯めておくという使い方もできます。

松本 南海トラフ大地震や首都直下型地震などの巨大地震の可能性が高まるなか、災害対策にもなるというZEHのメリットが注目を集めそうです。小山 東京など人口が集中しているエリアで災害が発生すると、行政が避難場所を確保することも難しいことが防災の専門家から指摘されています。その場合、多くの人が自宅を待たず、避難先に行くことになるでしょう。平時だけでなく災害時にも安心して暮らせるという家庭防災の視点は、災害の規模の大型化が進んでいる今、これまで以上に重要性が高まっていると思います。